地域環境学ネットワーク設立記念シンポジウム　2010年9月18-19日　大阪学院大学　No.16

まちづくりの主体をうみだす　西淀川交通まちづくりプロジェクト

清水 万由子（長野大学環境ツーリズム学部）

公害のまち・西淀川と呼ばれて…



【大阪市西淀川区　概要】(平成22年西淀川区資料より)
人口：約96,000人
世帯数：約42,000世帯
事業所数・従業者数：製造業が最多
居住・生産複合地が多く占める(大阪市総合計画より)

江戸時代、淀川河口の低湿地帯が新田開発される。
明治中期以降は化学工業が盛んになり、阪神工業地帯の中核地として中小工場と幹線道路が集中する。

公害訴訟と地域

公害患者の発見と組織化には地域医療機関が重要な役割を果たした。公害反対運動には町内会も参加した。
国道43号線・阪神高速道路の管理者（国・旧阪神高速道路公団）は、和解条項に基づいて、原告に対して沿道環境改善の責任を負う。

西淀川の暮らし・自然・文化

戦前・戦後に他県から労働者が集まったが、農漁業を営んでいた古くからの住民も残る。70歳代以上の人は、淀川で泳いだり、フナ・ウナギ・シジミなどを採ったと懐かしむ大阪の“田舎”。低湿地帯なので水害も多いが、「矢倉緑地公園」は大阪市内唯一の自然海岸として保全されている。1974年まで国道2号には路面電車が走り、駅前商店街が賑やかだった。なんと、国道2号線を通行止めにして盆踊りをしたことも！
近年は工場撤退跡地にマンションや住宅地ができ、人口微増傾向にある。

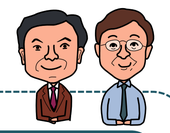
1960年頃～ 工場煤煙と自動車排気ガスによる大気汚染により、気管支喘息等の患者が多発。1976年当時西淀川区民の20人に1人が公害患者だった。公害患者らが企業・国等を相手に公害訴訟を提起、約20年をかけて1995年和解。自動車交通量は減らず、未だにNO_2環境基準上限値付近

原告は和解金の一部を拠出して1996年に(財)公害地域再生センター（あおぞら財団）を設立し、若手職員が公害地域再生活動に取り組む。

公害地域再生活動

あおぞら財団は、公害によって疲弊した地域の再生をめざして、市民・行政・企業などあらゆる主体が協力しあえる社会環境づくりのための活動を行っている。

西淀川を公害のないまちにしたい…
人々が暮らし続けたいまちにするには…？
住民が思いを語りあい、思いを形にする場が必要！



西淀川交通まちづくり意見交換会

なぜ意見交換会なのか？

西淀川・交通まちづくりビジョン研究会では、地域に暮らす人たちが話しあいながら、まちづくりの方向性を決めていくことが重要だと考えました。

なぜ交通まちづくりなのか？

交通は、私たちの暮らしに欠かせない重要なものですが、交通事故、自動車の排気ガスによる環境悪化、高齢者や障害者にとっての危険など、様々な問題もあります。これらの交通問題を考えることは、私たちの暮らしについて考えることです。交通問題を解決することは、私たちの暮らしを変えることです。

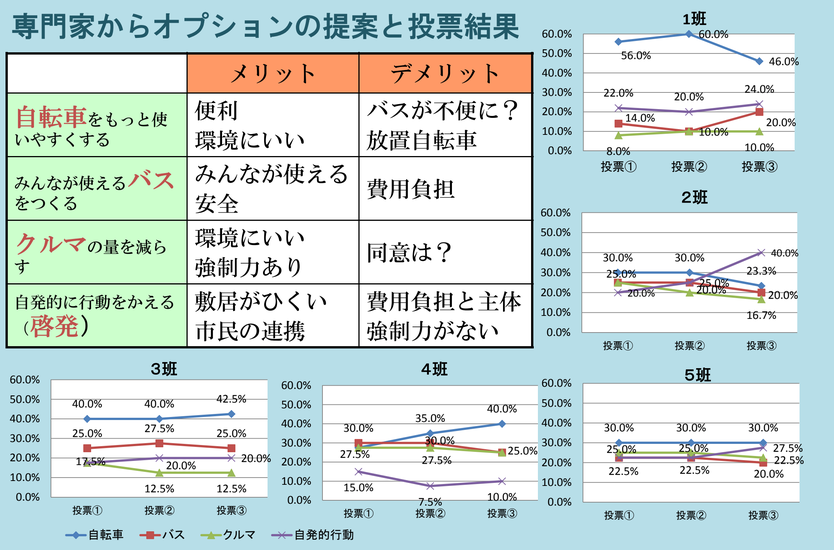
西淀川交通まちづくり意見交換会は、

西淀川がもっと住み続けたいまちになるように、交通の専門家の知恵を借りながら、交通まちづくりの方向性を話し合い、西淀川交通まちづくりビジョンを検討する場として開催されました。

（公開討論会資料より）

専門家からオプションの提案と投票結果

	メリット	デメリット
自転車をもっと使いやすくする	便利 環境にいい	バスが不便に？ 放置自転車
みんなが使えるバスをつくる	みんなが使える安全	費用負担
クルマの量を減らす	環境にいい 強制力あり	同意は？
自発的に行動をかえる（啓発）	敷居がひくい 市民の連携	費用負担と主体強制力がない



- 討議と投票を繰り返すことで、個人の選好順序の変容が生じていた
- ファシリテーター：交通整理型→変容大、情報提供型→変容小
- 個別意見への賛同（●シール）を根拠にした合意形成　≠　多数決

西淀川交通まちづくり市民調査

住民が、地域を見る目をみがく。

自分が暮らしているまちが、誰にとっても暮らしやすいまちかどうか、様々な視点から考えてみることが重要です。

住民が、地域を知る。

地域でいま、何か問題なのか、それを誰がどうやって解決しようとしているのか（いないのか）。自分の関わり方を考えてみましょう。

住民が、発信する。仲間を広げる。

知ったこと、考えたことを、西淀川に暮らす人々に伝えましょう。共感する仲間を広げて、まちづくりの主役を増やしましょう。

あおぞら財団が、お手伝いします。







研究会（大阪大学・京都大学・あおぞら財団）

文献・各種統計調査、ヒアリング・アンケート調査
無作為抽出による参加者募集（兼アンケート調査）
区内2000世帯に送付、返送数467通（返送率25%）うち「参加してみたい」96名（23%）
日時・場所を決定後、ハガキと電話によって25名の参加意思を確認

潜在的関心層にアプローチ

第1回意見交換会（2009年6月21日（日）13時半～16時半　区民会館）
「西淀川の交通問題の概要」（研究会から報告）
「何とかしたい！この問題　～交通の困りごとあれこれ～」（討議①）
「こんなまちなら住みたいな！　～10年後の西淀川～」（討議②）

参加者の関心の所在を知る

第2回意見交換会（2009年7月26日（日）13時半～16時半　区民会館）
「専門家からオプションの提案」（土木・交通計画研究者から）
「専門家の提案を品定めする」（投票→討議①→投票）
「気になる意見に●シールを貼る」
「私たちの提案を選ぶ」（討議②、グループで合意形成）

専門家提案の評価を通じて意見形成・変容をもたらす

第3回意見交換会（2009年8月30日（日）午後1時半～4時半　区民会館）
「専門家からオプション・パックの提案」（土木・交通計画研究者から）
「実現したいオプション・パックを選ぶ」（討議① → グループ再編）
「アクションプラン（誰が何をする？）を考える」（討議②）

提案を具体化し実現の道筋をイメージする

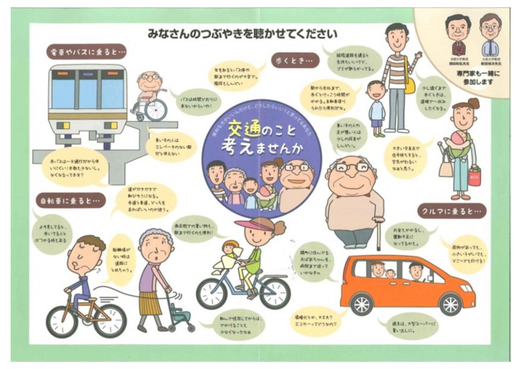
WGで検討

西淀川交通まちづくり公開討論会（2009年12月19日（土）西栄寺）
意見交換会開催報告　（研究会から）
西淀川交通まちづくりビジョン発表（研究会から）
コメントとパネルディスカッション
（交通工学研究者・大阪市建設局自転車対策担当・意見交換会参加者）

外部者・ステークホルダーによる評価

ビジョン報告（報告書、ステークホルダーへの説明）

実現に向けた課題の把握

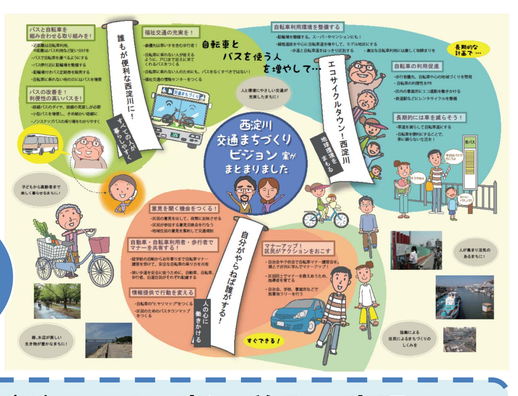












あおぞら財団自主事業

意見交換会参加者＋参加意思表明者に案内送付、10～15名程度が参加申込

第1回「お話＆疑似体験：車いすの視点でまちをチェックしよう
車いすでまちを歩く　2010年7月17日（土）あおぞら財団
区内在住車いす利用者、とがさんのお話＆話し合い

困難を抱える人の立場から地域の現状を知る

第2回「お話＆疑似体験：視覚障がい者と高齢者の視点でまちをチェックしよう」2010年7月24日（土）あおぞら財団
視覚障がい者＆高齢者キットでまちを歩く
区内在住視覚障がい者、山本さん＋盲導犬ブライディのお話＆話し合い

第3回「話し合い：調べたいこと・発信したいこと」
2010年8月21日（土）あおぞら財団
阪大松村先生のお話「市民まちづくり活動をはじめるには」
話し合い「大切にしたいこと、調べたいこと、発信したいこと」

学び・話し合いからアクションへ踏み出す

放置自転車・駐輪場不足の実態を調べてみよう！

車いす・視覚障がい者に手をかすコツ　講習会をやろう！

小さく始めて大きく育てるネットワークづくり



交通まちづくりビジョンの更新・普及・実現へ

ビジョンを掲げるだけでは、協働は始まらない
→　ステークホルダーの事業内容や意思決定システムに合わせた、指針と課題の整理が必要なのかも？　（…整理中・交渉中…）

西淀川交通まちづくり意見交換会は、住友財団2007年度環境研究助成「環境と福祉を統合する参加型交通まちづくり」（研究代表者・新田保次　大阪大学教授）の一環として開催しました。支援に感謝いたします